認知症になっても安心して暮らせる社会を

2025　November
No. 544
11

月刊 POLE－POLE（スワヒリ語）

ぽ～れ ぽ～れ

ゆっくり　やさしく　おだやかに

「ぽ～れぽ～れ群馬県支部版」
わたぼうし
No.507

認知症の人と家族の会　理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、
人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穏に続けられなければならない。
認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい助け合って、
人として実りある人生を送るとともに、
認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。

巻頭言

介護保険制度改定の動きに向けて

今、2027年度の改定に向けた制度改定の議論が厚生労働省の審議会で行われています。その内容には、高齢者本人や配偶者・家族にとって直接的な負担増になるだけでなく、実質的に支える現役世代にとっても大きな負担増になる項目が多く含まれています。こうした負担増は、労働時間の制約や介護離職を招き、労働力不足をさらに深刻化させる懸念があります。

介護保険制度は、「介護の社会化」を目的とし、専門職による支援が入院や転倒などのリスクを減らし、結果として医療費や家族の介護負担を含めた社会全体のコスト抑制・効率化にも寄与してきました。

利用者の負担増により家族介護に頼ることになれば、症状の悪化、現役世代の働き方や生活への影響も大きくなります。

現役世代が働き続けられ、高齢になっても安心して利用できる持続可能な制度を守るために、しっかりと議論の行方を見守り必要な意見をはっきりと述べていきましょう。

目次

・巻頭言　介護保険制度改定の動きに向けて　1頁
・報告
○「家族の会」支部代表者会議 in 札幌　2頁
○第41回「全国研究集会」
・報告
「認知症のケア資質向上のための研修会」に参加にして　世話人（作業療法士）笹谷朋弘　3頁
・〈わが家の認知症ケア手帳〉㊻　渡辺医院院長　渡辺俊之　4頁
・オンラインのつどいのご案内　4頁

これからの予定

●12月13日（土）桐生つどい
10時～12時　桐生市総合福祉センター
●12月14日（日）渋川つどい
10時～12時　渋川市中央公民館
●12月20日（土）太田つどい
10時～12時　太田市韮川行政センター
●12月21日（日）県央つどい
10時～12時　県社会福祉総合センター
7階　701会議室
（第3日曜日に変更につきご注意ください）

電話相談

◎群馬県支部（群馬県からの委託事業）
認知症の人と家族のための電話相談
027（289）2740
◎本部フリーダイヤル
0120（294）456

X(旧 Twitter)
やってます

発行：公益社団法人 認知症の人と家族の会　〒602-8222　京都市上京区清明町 811-3　岡部ビル２F　http://www.alzheimer.or.jp
群馬県支部　〒371-0843　群馬県前橋市新前橋町 13-12　群馬県社会福祉総合センター７階
TEL：027-289-2740　FAX：027-289-2741　Mail：misato@xp.wind.jp　相談等にもご利用ください。

報告

2025年10月25日　支部代表者会議
10月26日　第41回全国研究集会

今年の「家族の会」支部代表者会議、全国研究集会が、北海道支部の担当で、道都札幌の地で開催されました。群馬県支部からは支部代表田部井が現地参加しました。

支部代表者会議

「家族の会」では今年6月の総会で、川井元晴、和田誠のお二人を共同代表に選任し、新体制がスタートしました。また、支部においても代表が代わるなど全国的に若返りが図られています。その新体制の順調な滑り出しを確認しあうとともに、認知症基本法が成立し、多様化する認知症を巡る状況を踏まえ、今後「家族の会」が果たすべき役割を鮮明にしてゆくうえで、大切な会議と位置付けて参加しました。

会議では、まず2024年度の活動について、つどいの参加者が前年の45,561人から48,939人に増えたこと、電話相談が前年19,992人から21,624件に増えたことなどの統計から、継続的な相談ニーズの高まりを反映していると評価しました。

2025年度上半期の主な活動では次のような点の説明がありました。

●「認知症の人とともにある家族の権利宣言」と解説版の発出

●SNSによる広報の重視と「てとてナビ」の意義

＊つどい、電話相談の重視、介護保険の改悪反対、てとてなび、群馬県支部もより真摯に取組んでいくべきテーマと認識した有意義な会議でした。

全国研究集会

認知症の人と家族への援助をすすめる第41回全国研究集会in北海道

「最期まで私らしく生きたい」

○10：15～11：00　基調講演1

「平均寿命－健康寿命～10年間をどう生きるか」

（石原宏治　北海道新聞社帯広支社長）

○11：00～11：45　基調講演2

「最期まで私らしく生きたいを支えるために」

（内海久美子　NPO法人中空知・地域で認知症を支える会理事長、滝川メンタルクリニック医師）

○11：45～12：15　体験・実践発表1

「趣味のハーモニカを吹きながら認知症の語り部として生きる」

（江森元春　認知症当事者　長野県支部会員・NPO法人峠茶屋理事長）

○体験・実践発表2

「3012人の認知症当事者・家族への診療実践」

（松本一生　医療法人圓生会松本診療所・ものわすれクリニック理事長・院長）

○13：15～13：45　体験・実践発表3

「在宅介護7年『チャチャチャ』と前向きに」

（橋本立明　一般財団法人健康生きがい開発財団健康生きがいづくりアドバイザー）

○「ごちゃまぜシェアハウスで役割を持ち、自分らしく暮らす」～認知症の人が地域で暮らし続ける意味～

（山内勇人　医師、支え合いホームきよっちゃんち　家主）

＊私にとっては、「私らしく生きる」とのテーマとは別に、橋本氏の介護7年の素朴な語り口と、松本一生先生の医師として、家族介護者としての関わり方に深く感ずるところがありました。

会は、北海道支部の開催ギリギリまでの奮闘によりほぼ満席の盛況でした。

＊次の「シンポジウム～最期まで「私」らしく生きたい」は、残念ながら退席しました。

（注）なお、全国研究集会は、42回以降も引き続き開催されることが決まりました。

認知症ケア研修会報告

笹谷朋弘（世話人　作業療法士）

群馬県作業療法士会主催の研修会で山口副代表が登壇されました。

10月18日㈯高崎市総合福祉センターで、群馬県作業療法士会主催「認知症ケア資質向上のための研修会」に家族の会副代表の山口怜生さんに講師としてご登壇頂きました。

今回の研修会は当士会が毎年企画している事業の一つで、認知症の方に関わる専門職を対象にケアの質の向上を図るために開催しています。因みに田部井代表もこの研修会には何度もご登壇を頂いており、介護家族者の声の発信や家族の会のこともお話して頂いています。

今回、山口副代表にご登壇頂いたテーマが「**認知症の人と家族の声から専門職へ望むこと**」といった演題名でご登壇頂きました。家族の会の「つどい」での実際の参加者からのコトバや、現場ベースで介護家族者の苦しみや葛藤といったことを分かりやすくお話頂きました。またそのような家族の背景や状況を踏まえて、関わっていく専門職はどのような姿勢で家族と関わっていくことが重要かを講義のなかで伝えて頂きました。

研修会の参加者は半分以上が介護支援専門員で、熱心にメモを取っている様子や頷いている様子がみられていました。また介護支援専門員の他にも介護福祉士や看護師、保健師など様々な職種も参加されていました。因みに作業療法士会(以下、OT)主催の研修会にも関わらず、OTの参加人数は少ない現状でした・・・

講義後の参加者からのアンケートでは、うれしい気づきのコメントが多々寄せられていたためいくつかご紹介させて頂きます。

・「ご家族の気持ちに寄り添っているつもりで、傷つけてしまっていたかもと、反省しました。これからは、専門職としてのアドバイスをさせていただく場面でも、気をつけていきたいと思います。」

・「実際の家族の生の声が聞けて頷くことばかりでした。専門職としての声かけは何の意味もないと思えてしまった。「何かあったら相談してください」とよく言っているなと思いました。何かではなく具体的な言葉が必要なのだと教えられました」

・認知症の人の家族が話すことは、「聞いて欲しい」のか「解決策を教えて欲しい」のか。この見極めは、ただ机上で学習するだけでできるものではないんだな、と感じます。相談援助職のケアマネージャーとして、課題を感じました。」

など、様々な専門職が日頃の自分の関わり方を振り返り、感じた感想を多くご回答くださっていました。

今この記事を書いている私自身もリハビリテーション職として家族に色々と提案していたことが家族を苦しめていたのかなと思うと申し訳ない気持ちで一杯に・・

相手にとって良いと思って行っていた言動や行動が逆に相手を苦しめていたということはその時は全く気が付いていませんでした。家族の会の「つどい」に参加するようになり、実際に家族の声を聞いたことで、はじめて気が付くようになっていきました。

今回この研修会に参加した専門職の方々はアンケートに書いてあったように講義を通し、介護家族者の声を聞いて様々なことに気が付いたと思います。

少しでもこういった研修会活動で、介護家族のつらさや声が専門職へ届き、その後の関わりの変化が生まれると良いなと思いました。

引き続きこのような研修会を通して様々な専門職へ声を届けることが出来ればと思います。

渡辺俊之の〈わが家の認知症ケア手帳〉⑥⑥

日頃から嚥下障害に注意を

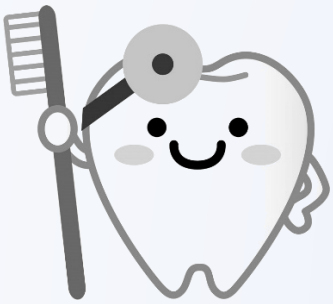
渡辺医院院長（精神科医、当会顧問）　渡辺俊之

以前に、食欲の出ない認知症の人に「リバスチグミン」という貼り薬が効果があることを紹介しました。読者の方から問い合わせのメールをいただいたので、主治医に相談してみるようにお伝えするとともに、「嚥下障害には注意してください」と返信しました。

米国セントルイス大学医学部の言語聴覚士ペイン氏は認知症における嚥下障害の研究を論文にまとめています。これまでの報告では、認知症で嚥下障害のある患者の誤嚥性肺炎による死亡率は、障害のない患者の２倍、認知症の進行につれて嚥下障害も進み、終末期の認知症患者で自分で食事ができる人は 24％にまで減少するそうです。

日本神経摂食嚥下・栄養学会では、嚥下障害について日常生活でチェックする方法を紹介しています。①食事中、水分を飲む際にむせる、②食事中、食後あるいは日中に声がきれいに出ず、たんがからんだようにゼロゼロする、③夜間就寝中にせき込むことがある、こうした症状がなくても食事量が減っている場合には、薬の効きすぎによる睡眠不足や昼夜逆転がないか、口腔内の状態はどうかをみる必要があります。

特に以下のような点に注意が必要です。①歯の欠損、義歯の不適合など口腔内の環境、②食事の時に目が覚めているか、③食べ物の認識ができるかー。このような状態が気になる場合は、認知症に詳しい医師、歯科医師、看護師、栄養士などに相談してください。食べたいのに食べられないのはつらいものです。食事に関する工夫は数多くありますのでぜひ専門家に相談してみてください。



認知症の人と家族の会群馬県支部　会員限定オンラインつどい

●毎月第４火曜日　20:00～21:00　　zoom にて開催

対象：群馬県支部会員の介護家族の方

今年度４月より、オンラインのつどいを開催しています。
「ZOOM」というインターネットのシステムを利用し、パソコンやスマホから参加ができます。
使い方がわからない方には事前に使用方法の説明をすることも可能です。
お気軽に事務所までお問い合わせください。
参加希望の方は、メールアドレスの登録をお願いします
群馬県支部イベント管理アカウント宛に会員名、登録希望と記入の上、メールを送ってください。
登録いただいた方に ZOOM 詳細をお知らせします。

メール：nintisyougunma@gmail.com
担当：水出